

# 日蓮大聖人御書全集

ほんぞんくようごしよ

本尊供養御書

新版  
1862  
ゝ  
1863

ほんぞんくようごしよ

# 本尊供養御書

けんじ

ねん

がつ

さい

なんじようへいしちろう

建治 2 年 ('76)

12 月

55 歳

南条平七郎

ほけきようごほんぞんごくよう

ごそうぜんりよう

こめいちだ

いものかしらいちだ

おく

法華經御本尊御供養の御僧膳料の米一駄・蹲鴟一駄、送

た そちら お

り給び候い畢わんぬ。

ほけきよう

もんじ

ろくまんくせんさんびやくはちじゅうしじ

いちいち

もんじ

われ

法華經の文字は六万九千三百八十四字、一々の文字は我

め

くろ

もんじ

み

そちら

ほとけ

おんまなこ

いちいち

らが目には黒き文字と見え候えども、仏の御眼には一々

みなみほとけ

たと

こんぞくおう

もう

こくおう

すな

こがね

に皆御仏なり。譬えば、金粟王と申せし国王は沙を金とな

しやくまなん

もう

ひと

いし

たま

な

たも

ぎよくせん

い

し、釈摩男と申せし人は石を珠と成し給う。玉泉に入りぬ

き

るり

な

たいかい

い

みず

みなしわはゆ

しゆみせん

る木は瑠璃と成る。大海に入りぬる水は皆鹹し。須弥山に

ちか とり こんじき

近づく鳥は金色となるなり。

あかだやく どく くすり

阿伽陀薬は毒を薬となす。

ほけきよう ふしぎ

法華經の不思議もまたかくのごとし。凡夫を仏に成し給う。

かぶら うずら

やま いも

鰻

せけん ふしぎ

蕪は鶉となり、山の芋はうなぎとなる。世間の不思議、

ほけきよう おんちから

もってかくのごとし。いかにいわんや法華經の御力をや。

さい つの み たい

たいかい い みず み さ

犀の角を身に帶すれば、大海に入るに、水、身を去るこ

ごしやく せんだん もう こう

み 塗 たいかい い や

と五尺。梅檀と申す香を身にぬれば、大火に入るに焼くる

ほけきよう たも はっかんじごく みず

ことなし。法華經を持ちまいらせぬれば、八寒地獄の水に

濡 はちねつじごく たいか や ほけきよう だいしち い

もぬれず、八熱地獄の大火にも焼けず。法華經の第七に云わ

ひ や あた みず ただよ あた とううんぬん

く「火も焼くこと能わず、水も漂わすこと能わず」等云々。

こととお

もう

とし 迫

おんつか

いそ

そうら

ふで

とど

事多しと申せども、年せまり、御使い急ぎ候えば、筆を留

そうら

お

め候い畢わんぬ。

けんじにねんひのえねじゆうにがつ

にち

建治二年丙子十二月

日

にちれん

日蓮

かおう

花押

なんじようへいしちろうどのごへんじ

南条平七郎殿御返事